

仙台市青葉区桜ヶ丘地区民生委員児童委員協議会

1. 地区の概要

桜ヶ丘地区は、仙台市青葉区の北西部に位置し、昭和40年代に土地開発が行なわれ、現在の桜ヶ丘地区が形成されました。この時代、仙台市郊外にベッドタウンとして盛んに開発された新興住宅地です。

平成26年4月現在、人口は1万108人、世帯数4,772、高齢化率31.1%と、少子高齢化の傾向が著しくなっています。

公営住宅12棟、マンション2棟、戸建て・集合住宅からなる地域で、15の町内会が組織されています。

教育・保育施設関係では、桜丘小学校、桜丘中学校、明成高等学校、宮城学院幼稚園・中学校・高等学校、宮城学院女子大学、桜ヶ丘保育所があるなど文教地区でもあります。

この地域を担当する桜ヶ丘地区民生委員児童委員協議会は、主任児童委員2名を含む17名の委員により組織されています。

2. 東日本大震災の影響

大震災では、当地区においても以下のような被害が発生しました。

家屋全壊5件、大規模半壊25件4棟、半壊多数、基礎亀裂46件1棟、
地盤沈下22件集合住宅6棟、液状化現象25件、
屋根瓦一部損壊65件、50%破損15件、道路亀裂沈下等で通行不能22か所
指定避難所への避難者数625名、乗用車による避難90台
人的被害はなし

3. 発災からの歩み

長期間にわたりライフラインが寸断、燃料不足のなか、地区内15町内会ごとに要支援者の安否確認を行なうとともに、民生委員・児童委員、福祉委員、町内会役員、近隣住民が一体となって連日支援活動を行ないました。

一時避難所、指定避難所への誘導支援、車庫や集会所等での炊き出しや配給、高齢者のみならず不安を抱えた母子世帯への食事、入浴提供や個人宅への宿泊の協力、備蓄品の提供、さらに住民とともに小学生の参加を得た高齢者、障がい者への給水（水汲み）支援、中学生による的確な情報伝達、中学卒業生による避難所運営への協力、他縣市町村からの避難住民への食事等の提供にも取り組みました。

失業、事業所や自動車の流失、親族の津波被害、住居の補修等で悩んでいる方がたの精神的苦痛の軽減のための「心のケア」にも努めました。

さらに、転入された被災者のためにも、町内会住民と同様に、各種行事、サロン活動にも参加いただいています。

倒壊、被災した戸建て住宅や集合住宅の入居者の転出、病死、補修費の確保、改築困難な住宅、空き家管理、被災地の高校合格、転入地高校への通学等、さまざまな課題についての助言も行なってきました。

東日本大震災から4年を迎えた本年3月11日、近隣の5つの小中学校が一堂に会し、震災を風化させないために、次の世代に伝え、「今、自分たちにできること」の復興の集いが開催されました。

4. 関係機関との連携協働

○桜ヶ丘学区防災訓練（毎年実施）

「自分たちの地域は自分たちで守る」という理念に基づき、防災対応能力向上と地域住民の互助と連帯意識の高揚を図る目的で実施
地域包括支援センターにおける避難時の注意と体操

○桜ヶ丘地区防災計画会議の開催

報告内容

- ・災害時の活動状況と問題点
- ・関係機関との連携状況
- ・避難所の運営について

出席者

青葉区役所、荒巻給食センター、青葉消防署荒巻出張所、桜丘小学校、桜丘中学校、桜ヶ丘地域包括支援センター、桜ヶ丘保育所、桜ヶ丘マイスクール児童館、マイスクール桜ヶ丘、桜ヶ丘駐在所、15町内会、各種8団体

○研 修

「支え合う地域社会を築くために」行政との研修会

5. 民児協活動

子育てサロン waiwai を毎月1回開催

小中学校との連絡会、地域包括支援センターとの連絡会の開催

東日本大震災を教訓に各町内会、関係諸団体、地域住民と連携し、自助・共助を基本に要援護者支援体制を日々の民生委員・児童委員活動に活かしています。

終わりに、全国の民生委員・児童委員の皆様より、温かいご支援を賜り、当民児協委員一堂、あらためて心より深くお礼申し上げます。